

クリスマス当日の忘年会に集まった「太秦妖怪倶楽部」の面々。前列中央が原田監督。右上の上半身裸がドンペイさん
—京都府長岡京市内で2017年12月25日、原田監督提供



今もそららんじる初セリフ

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52) 草津市

はい上がる人

わたしの歩跡

▲時計を巻き戻し、今回は緊張いっぱいだった初セリフを紹介する。その個性が、一人の個性豊かな監督に見いだされたのがきっかけだ。1990年代初め、東映から松竹の大部屋に移った頃の話だ。映画の琵琶湖口でしたね。

▲時計を巻き戻し、今回は緊張いっぱいだった初セリフを紹介する。その個性が、一人の個性豊かな監督に見いだされたのがきっかけだ。1990年代初め、東映から松竹の大部屋に移った頃の話だ。映画の琵琶湖口でしたね。

いうて監督もしている人で、変わった人が好きやねん。土ちゃん、徹さんが撮るとき、声が掛かるわ」。その作品の助監督のチーフを務めておられ、日本を代表する深作欣二監督や五社英雄監督らの助監督もするすごい人でした。

▲原田さんは一癖も二癖もある個性派俳優を集め、そのメンバーは「太秦妖怪倶楽部」と呼ばれる。その一員にいわばスカウトされた。すぐにテレビ時代劇で、悪方の一人にご指名をしてくださいました。ラストの立ち回りで、橋の上でバサッって切られて「池に落ちろ」。普段何も芝居ができない立場の人間からすると、「あれもやってこれもやって」と言われるのが、生きがいに感じるのでした。わかったです。ありがとうございます。

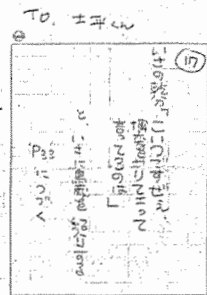
▲原田監督(63) 京都府長岡京市から熱きメッセージが届きました。本文とは違う作品の池の撮影での武勇伝も教えていただきました。原田監督はテレビ時代劇を多数演出し、映画「男たちの大和/YAMATO」などのBユニット監督を務めています。

「妖怪」ぶり見初められ

主演で、フジテレビ系で放送された時代劇「八丁堀捕物ばなし」(1993〜94年)だ。

原田さんが監督をした回で、朝、ロケに出発する前に「土ちゃん、これ言つて」って、鉛筆書きの原稿用紙を渡されたんですね。兄貴に仕える子分役で、「こいつですぜえ、博奕をやりてエって言ってるのは」(そうですらう言ってみせた)。これがセリフかあ。言えるかなあ、言えるかなあってドキドキしましたね。ロケバスの中で、「こいつ……」って言い方を覚えて何回も練習してたら発音がおかしくなつて。

早朝の渡月橋(京都市・嵐山)での撮影でした。一発ですんなり言えましたね。出演予定表に



原田監督から渡された記念すべき初セリフの生原稿。今も大事に保管している

「セリフあり」って書き込んで。ははは。手当が500円くらい付きましたね。会社を辞めるとき、大部屋の女性社長が「そんな無茶やめとき。徹ちゃん(原田さん)がそんな希望を与えたんやろ」って。原田さんは関係なくて、退社してから「自分でなんとか頑張ります」って伝えました。

▲数千とも言われる俳優がひしめく東京へ半身乗り込み、チャンスに食らいつく頑張りぶりを、次回から紹介する。

【編集局・大澤重人】
11月、水曜掲載

「油断するなよ」

原田監督(63) 京都府長岡京市から熱きメッセージが届きました。本文とは違う作品の池の撮影での武勇伝も教えていただきました。原田監督はテレビ時代劇を多数演出し、映画「男たちの大和/YAMATO」などのBユニット監督を務めています。

原田監督からメッセージ
「んー」とテストから本番まで50分入水してくれた。季節は冬。大覚寺・大沢池(京都市右京区)は雪解け水で身体中を刺すような痛さ。OKができる、彼は震えながら撮影所のシャワー室まで直行。しかし、その日給湯器が故障しお湯が出ず悶絶!! ドンペイさんは「一生忘れません」。

土平ドンペイさんは「太秦妖怪倶楽部」のメンバーだ。この倶楽部は東映や松竹の強者たちとけつたいな作品を作る目的で、ややこしい外見をしている人を集めた。そんな中、「必殺仕事人」の撮影に彼をキャストینگした。今風に言つと現場検証のシーン。池の中で探し物をして「僕が言つと喜ぶよ」って。最後に一言、「油断するなよ」。